



中山間地域の農地・耕作放棄地を活用した あいちスマートアグリバレー整備

グループ名：スマートアグリ

メンバー：入野智樹、目加田路子、久野裕、崎本雄太

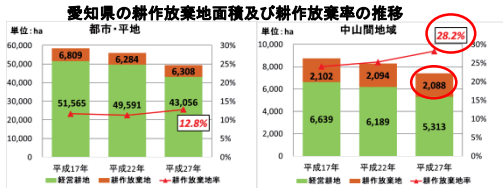
チューター：薄井智貴、武田美恵

現状の把握

現在、愛知県の農業が抱える問題として下記が挙げられる
①生産力が低下 ②農業就業者減少 ③耕作放棄地率の増加

都市や平地の耕作地は農地バンクで集約されて活用

成り行き姿：一方中山間地域の耕作放棄地は残る



- ありたい姿
- ①生産力維持、向上
 - ②誰でも農業に取り組みやすい
 - ③中山間地域の耕作放棄地減、農地増

20年後に向けての提言の概要

2040年 中山間地域の耕作放棄地を農地として活用するために

中山間地域の耕作管理技術・手法を開発する『あいちスマートアグリバレー』を整備

【整備する意義】

- ①農業法人以外が農地を利用しやすい場を設ける
- ②産官学共同研究の場を提供できる
- ③農家と企業がつながる場を提供できる

中山間地域の問題を解決する技術を開発できる

提案の内容

中山間地域特有の生産に不利な状況を解決する技術開発の場「スマートアグリバレー」を整備し、生産力を向上させて豊かなあいちを目指す！

耕作放棄地減、農地増



提案実現のための具体的な取り組み(アクションプラン)

モデル地区：岡崎市榎山町周辺を想定

	2020	2030	2040
事業整備・評価	インフラ整備誘致	農地管理、開発技術評価	
長期開発 (15~20年)		飛び地の管理の研究開発等	実用化
中期開発 (8~10年)		鳥獣被害防止の研究開発等	実用化
短期開発 (3~5年)	自動草刈機の研究開発等	実用化	実用化

県内他地域へ展開

事業全体予算(5年目まで)：初年度5,000万円、2~5年目4,500万円
国、愛知県、岡崎市で負担し、企業・農家・大学が利用する開発する技術1件につき500万円/年の補助金を給付する

波及効果

2040年には中山間地域の耕作放棄地が6割活用されているとすると...

40億円/年 生産力アップ!

さらに

- ・スマートアグリ関連産業がものづくり愛知の新しい産業になる
- ・最適管理で美味しく安心安全なあいちブランド作物を生産できる
- ・農業に参入する企業や個人が増加する



あいちスマートアグリバレーで
食と緑と技術が支える豊かな「あいち」を目指す!

